

2020 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 14:50~15:50 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないようにしてください。
8. 一度記入したマークを修正する場合、しっかりと消してください。消し残しがあると、マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。

150-SQ-J



I 次の1から3の史料・文章を読み、それぞれの設問に答えなさい。解答は、漢字を用いるべきところは正確な漢字で記述解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。選択問題についてはマーク解答用紙の記号をマークしなさい。なお、史料は、読みやすさを考えて、一部改変している。(26点)

1 史料1

推古天皇十二年に暨^{およ}び、上宮太子親^{みづか}ら憲法十七箇条を作り、国家の制法^{ここ}茲より始まる。降りて天智天皇元年に至り、令二十二卷を制す。世人の所謂^{いへ}る近江朝廷の令なり。爰に文武天皇の大寶元年に逮^{いた}りて、贈太政大臣正一位藤原朝臣不比等、勅^こを奉^{うけたまわ}りて、律六卷、令十一卷を撰す。養老二年、復^{また}た同大臣不比等、勅^こを奉りて更に律令を撰し、各十卷と為す。

史料2

焉^こに、旧辞の誤^{あやまり}忤^{たが}へるを惜しみ、先紀^(注1)の謬^{あやまり}錯^{まちが}れるを正さむとし、和銅四年九月十八日に、臣安万侶に詔して、Aが所誦^{よめ}る勅語^{みことり}の旧辞^{えら}を撰^{しる}び録して献上^{たてまつ}らしむといへり。謹みて詔旨^{みことり}の隨^{まにま}に^(注2)、子細^{ひり}に採^ひり摭^{ひぬ}ひぬ^(注3)。

(注1) 帝紀のこと (注2) ままに (注3) 採録した

史料3

太政官奏^{そう}すらく^(注4)、「頃者^{このころ}、百姓^{ようや}漸く多くして、田池^{さくきょう}窄狭^(注5)なり。望^こみ請ふらくは、天下に勸^{おほ}め課^かせて、田疇^{でんちゆう}^(注6)を開闢^{ひら}か^(注7)しめん。其の新たに溝池を造り、開墾^あを営^つむ者有らば、多少を限らず、給^{ふる}ひて三世に伝へしめん。若し旧き溝池^おを逐^おはば、其の一身^おに給せん」と。奏可す。

(注4) 天皇に申し上げたことには (注5) 狭い (注6) 田地

(注7) 開墾する

史料4

太政官符^ふす^(注8) 応^{まさ}に健児^{つかわ}を差^さすべき事

大和国三十人 河内国三十人 和泉国二十人 (中略)

以前^{さきに}、右大臣^{せん}の宣^{せん}を被^いるに備^いく、勅^こを奉^{うけたまわ}るに、今諸国の兵士、辺要^よの地を除くの外、皆停廢^{やぶ}に従へ。其の兵庫^(注9)・鈴藏^(注10)及び国府等の類は、宜^{よろ}しく健児^{つかわ}を差して以て守衛^あに充^あつべし。宜^{よろ}しく郡司^{えら}の子弟^{えら}を簡^あび差して、番^あを作りて守らしむべし。

延暦十一年六月十四日

(注8) 命令を下す (注9) 武器庫 (注10) 駅鈴保管庫

- 問1 史料1は律令制定までの過程を述べたものだが、689年に施行された法令が記されていない。その法令の名称を記しなさい。
- 問2 史料1に記されている時期の出来事として当てはまらないものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
- ア. 唐が興ると、遣唐使として犬上御田歙が派遣された。
 - イ. 隋・唐で学んだ高向玄理・旻は、国博士として政治改革に寄与した。
 - ウ. 遣隋使として小野妹子が派遣され、煬帝に国書が送られた。
 - エ. 隋より返礼の使者として裴世清が遣わされた。
 - オ. 唐留学から帰った吉備真備・玄昉は、橘諸兄とともに政権を担った。
- 問3 史料2の空欄Aに入る人物の姓名を記しなさい。
- 問4 史料3が示す法令が出された年を西暦で記しなさい。
- 問5 史料4が示す政治改革を進めた天皇による政策として正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
- ア. 班田収授を励行させるため、6年ごとの戸籍作成にあわせて6年1班だった班田の期間を、12年1班に改めた。
 - イ. 長岡京への遷都を進めたが、長岡京造営を主導した藤原武智麻呂が暗殺されるなどして、さらに平安京へ遷都することになった。
 - ウ. 征夷大將軍に坂上田村麻呂を任命して東北へ遠征させ、鎮守府を胆沢城から多賀城に移した。
 - エ. 平安京内の治安維持にあたる勘解由使を設けるなど、令に規定のない令外官を新設した。
 - オ. 天皇の側近となる藏人を設け、その役所として藏人所を設置し、藏人頭に藤原緒嗣を任命した。

2 中国文化の消化・吸収が進むと、日本人の感性や美意識をより豊かに表現する文化が生み出されていった。貴族社会を中心に発達したこの文化は、国風文化（藤原文化）と呼ばれている。

文学の分野では、和歌や物語など数多くの作品が世に出た。注目できるのが女性^①の活躍で、たとえば『紫式部日記』や『源氏物語』を著した紫式部や、『枕草子』の作者である清少納言などが有名である。また、書道では和様の特徴が好まれるようになり、仮名や草書体の流麗な書風が発達した。和様の能書家として名を残したのが小野道風・藤原佐理・藤原行成の3人で、彼らは三跡（蹟）と呼ばれる。

美術工芸の分野においても、日本風に洗練された作風が現れた。まず絵画では、日本の風物を題材とする大和絵が描かれた。次に工芸では、漆で文様を描きその上に金銀などの粉をまきつけて模様とする や、貝殻を薄くして埋め込み模様とする螺鈿などの技法が発達した。こうした美術工芸品は貴族に珍重され、住まいの屏風や襖などに大和絵が描かれたり、 や螺鈿の施された調度品が使用されるなどした。

問6 下線部①に関して、女性が記した日記の組み合わせとして正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 『和泉式部日記』『蜻蛉日記』『土佐日記』
- イ. 『蜻蛉日記』『更級日記』『小右記』
- ウ. 『和泉式部日記』『蜻蛉日記』『更級日記』
- エ. 『和泉式部日記』『小右記』『土佐日記』
- オ. 『蜻蛉日記』『更級日記』『土佐日記』

問7 下線部②に関して、この人物が記した書状で、大宰府に赴任する途中、京都の親戚に宛てて書いたものは何か。その名称を記しなさい。

問8 空欄Bに入る最も適切な語を記しなさい。

問9 2の文章の解説として誤っているものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 和歌が盛んになる一方で漢詩文も重んじられ、藤原公任による『和漢朗詠集』が編まれるなどした。

イ. 紫式部は一条天皇の皇后定子に仕え、清少納言は一条天皇の中宮彰子に仕えていた。

ウ. 三跡（蹟）に対し、平安初期の唐風の筆跡を特色とする嵯峨天皇・空海・橘逸勢の3人は三筆と呼ばれる。

エ. 大和絵の初期の画家として有名なのが巨勢金岡である。

オ. 螺鈿の材料となった貝は、奄美大島や喜界島などの南島でとれる夜光貝などが用いられた。

3 10～11世紀、関東地方において桓武平氏が関わる2つの乱が起こった。1つは平将門の乱で、将門は関東地方の大半を制圧し新皇を称したが、や藤原秀郷らによって討たれた。もう1つは平忠常の乱で、忠常は房総半島で勢力を広げたが、朝廷から乱の鎮圧を命じられた源頼信に降伏した。

その後、の子孫は伊勢・伊賀を地盤とするようになり、院権力に接近していった。正盛は^③白河院に仕え、北面の武士に登用されたほか、源義親を討つなどして武名をあげた。その子忠盛は白河・鳥羽院に仕え、瀬戸内海の内海を平定したり、院近臣として功績をあげ台頭していった。

鳥羽院が亡くなり、保元の乱が勃発すると、忠盛の子清盛は後白河天皇方として武功をあげ、平治の乱では^a源義朝に勝利し、武家の棟梁としての地位を確立した。清盛は太政大臣に昇進し、その子重盛は内大臣に任じられるなど、平氏一族は朝廷の高位高官を得ていった。さらに清盛は、娘徳子を^b高倉天皇の中宮に入れ、生まれた子の^c安德天皇を即位させて、天皇の外祖父の立場を得た。一方で平氏は、畿内や西国の武士を^c家人にしたり、一門が受領に任じられるなどして勢力を広げていった。また、数多くの知行国や荘園を経済的基盤とし、日宋貿易にも力を入れた。日宋貿易では、宋銭・陶磁器・書籍などが輸入され、金・硫黄・^d木綿などが輸出された。

しかし、平氏を打倒しようとする挙兵が広がって内乱へと発展し、ついに^④平氏は

京都から西国へ逃れることになった。その後、平氏は源氏勢との戦いに敗れ、壇の浦において滅亡するに至った。

問10 空欄Cに入る人物は将門のいどこにあたる。その人物の姓名を記しなさい。

問11 下線部③に関して、六勝寺の1つで、白河天皇の発願で建立された寺院の名称を記しなさい。

問12 第3段落の波線部a～dに関する指摘として適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. aは誤りで、正しくは源為義。

イ. bは誤りで、正しくは後白河天皇。

ウ. cは誤りで、正しくは西面の武士。

エ. dは誤りで、正しくは刀剣。

オ. a～dはすべて正しく、誤りはない。

問13 下線部④に関して、平氏が西国へ逃れた経緯として正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 後白河院と対立した平氏は、鹿ヶ谷の陰謀によって失脚し、安徳天皇をともなって西国へ逃れた。

イ. 打倒平氏を目指して挙兵した以仁王・源頼政と戦った平氏は敗北し、安徳天皇をともなって西国へ逃れた。

ウ. 平氏は安徳天皇をともなって福原に移り新都と定めたが、その間に源義経が京都に入ったため、福原からさらに西国へ逃れた。

エ. 木曾で挙兵した源義仲が北陸で平氏勢を破り、その勢いで京都に迫ってくると、平氏は安徳天皇をともなって西国へ逃れた。

オ. 富士川の戦いで源頼朝が平氏勢を破ると、頼朝はそのまま大軍を率いて京都に迫ってきたため、平氏は安徳天皇をともなって西国へ逃れた。

Ⅱ 次の1と2の文章を読み、それぞれの設問に答えなさい。解答は、漢字を用いるべきところは正確な漢字で記述解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。選択問題についてはマーク解答用紙の記号をマークしなさい。(24点)

1 13世紀には、畿内や西日本一帯で麦を裏作とする二毛作が普及するなど、農業の発展が広く見られるとともに、鍛冶・・^①紺屋などの手工業者が荘園や公領内に居住して製品をつくり、各地を巡回して商売を行った。

このため、荘園や公領の中心地や交通の要衝、寺社の門前などに定期市が開かれ、地元の産物などが売買されるとともに、行商人によって畿内などから織物や工芸品などが商品として運び込まれるようになった。

商業取引が盛んになったことにより、遠隔地間の流通も活発となり、陸上交通の要衝には宿が設けられるとともに、海上交通の中継点となった各地の湊や都市には、問(問丸)が発達した。また、流通の活発化にともない、日本列島各地で特産品の^②生産が発展をとげるようになった。例えば、尾張の瀬戸焼や焼、備前の備前焼などの陶器は、京都・鎌倉をはじめ、日本列島各地の湊や宿の遺跡から出土している。

このような商業取引における売買の手段として、専ら中国から輸入された宋銭が利用され、一部の荘園や公領では年貢の銭納化が進んだ。また、遠隔地間における商業取引には、金銭の輸送を手形で代用する為替が用いられ、高利貸業者である借上が金融機関としての役割を担うようになった。^③借上のように、経済的富裕層に成長した者は、当時と呼ばれた。

問1 下線部①について、a～eのうち、当時の状況を説明した文章の適切な組み合わせを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- a. 肥料には草を刈って田に敷き込む刈敷や、草木を焼いて灰にした草木灰を利用した。
- b. 鉄製の農具が普及する一方、農耕に利用する牛馬などの家畜の飼育はほとんど見られなかった。
- c. この時期には、多収穫米である大唐米が大陸より輸入され、米の生産力が向上した。
- d. 千歯扱や唐箕などの農具が普及するとともに、肥料には干鰯・メ粕・油粕・糠などが用いられた。
- e. 水稻の品種改良が進み、早稲・中稲・晩稲の作付けが普及するとともに、下肥が肥料として広く使用された。

- ア. a, b イ. b, c ウ. c, d エ. c, e
- オ. a, c

問2 空欄Aには、溶かした金属を鑄型に流し入れ、鐘や鍋釜などをつくる職能民の名称が入る。適切な語を記しなさい。

問3 下線部②について、鎌倉時代の状況を説明した適切な文章を、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 貨幣の両替や秤量を商売とし、領主に納められた年貢の出納や貸付などの業務を行った。
- イ. 流通の増加を踏まえて、関銭や津料といった通行税を徴収する役割を専ら担った。
- ウ. 年貢や商品の保管や輸送を行うとともに、領主の依頼により年貢の徴収や委託販売を請け負う者も存在した。
- エ. 生産地の仲買から商品を受託し、これを都市の仲買に手数料である口銭をとって卸売した。
- オ. 船の長として梶を取り、船を運航する役割を担い、名主や荘官が兼業して輸送業者に成長した。

問4 空欄Bには、中世に陶器の主要な産地であった、現在の愛知県の知多半島西岸の地名が入る。適切な語を記しなさい。

問5 下線部③について、鎌倉時代から室町時代にかけて使用された為替手形の名称を記しなさい。

問6 空欄Cに入る適切な語を漢字3文字で記しなさい。

2 室町・戦国時代には、京都・奈良・鎌倉に加えて日本列島各地に都市が発達した。寺社参詣の盛況とともに、寺社の門前市から発展した門前町や、一向宗寺院・道場を中心に形成され、自衛のため周囲に濠や土塁をめぐらした寺内町^④、戦国大名の居城を中心とした城下町などが成立し、各地における商工業や流通の拠点となった。

また、水陸交通の発達によって、各地に湊町や宿場町が繁栄したが、中でも湊町である堺や博多は、日明貿易の根拠地として発展した。16世紀に来日した宣教師ガスパル・ヴィレラが、^⑤当時の堺はヨーロッパにおけるベニス（ヴェネチア）のような自由都市に似ていると『耶蘇会士日本通信』に記したように、堺では 、博多では と呼ばれる豪商の合議組織がつくられ、領主から自治の特権が認められた。

一方、15世紀後半の京都については、「不計万歳期セシ花ノ都、今何ンゾ狐狼ノ伏土トナラントハ。適残ル東寺・北野サヘ灰土トナルヲ。古ニモ治乱興亡ノナラヒアリトイヘドモ、応仁ノ一変ハ仏法王法トモニ破滅シ、諸宗皆悉ク絶ハテヌルヲ不堪感歎、飯尾彦六左衛門尉、一首ノ歌ヲ詠ジケル。汝ヤシル都ハ野辺ノ夕雲雀アカルヲ見テモ落ルナミタハ」と『応仁記』に記されている。しかし、16世紀にかけて、京都では、富裕な商工業者である町衆を中心とした自治的な団体として町やその集合体である が生まれ、町衆の中から選出された月行事によって運営されるようになり、複数の が集まった上京・下京という都市組織からなる、新たな都市へと変貌を遂げた。

問7 下線部④について、1560年頃に興正寺を中心にして一向宗門徒による寺内町が発達した河内国の地名を記しなさい。

問8 下線部⑤に代表される、14～16世紀の日本の対外関係に関する次の出来事 a～e について、古いものから年代順に正しく配列したものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- a. 中国の寧波で、有力な守護大名である大内氏と細川氏が勘合貿易の主導権をめぐる争った寧波の乱が発生した。
- b. 中国人などの密貿易者を含む後期倭寇は、日本の銀と中国の生糸との交易を行うとともに、海賊として東シナ海沿岸など広い海域で活動した。
- c. 祖阿と肥富が使者として国書を持ち中国に赴き、皇帝から「日本国王源道義」宛の返書と大統暦を与えられた。
- d. 中山王の尚巴志により琉球王国が成立し、中国の冊封を受けるとともに、將軍足利義持にも入貢した。
- e. 室町幕府は、寺院を建立する造営費を調達するために、博多商人の至本を船主とする天龍寺船を中国に派遣して交易を行った。

- ア. c → a → e → b → d
- イ. e → c → d → a → b
- ウ. d → e → b → c → a
- エ. e → d → c → b → a
- オ. c → e → a → d → b

問9 空欄Dに入る適切な語を漢字3文字で記しなさい。

問10 空欄Eに入る適切な語を漢字3文字で記しなさい。

問11 下線部⑥の和歌から読み取れる内容として適切な文章を、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 京都では東山文化が花開き、多数の寺社仏閣が新たに建立されたことに感激している。

イ. 京都では、室町将軍をはじめとする武家が朝廷や公家を抑えて、政権を掌握したことを評価している。

ウ. 公家や武家に代わって町衆の力により、京都が新たな都市へと発展を遂げたことを評価している。

エ. 京都が町衆によって運営されるようになり、公家や武家の文化に代わる庶民の文化が発展したことを批判している。

オ. 京都が戦乱によって荒廃し、幕府や朝廷をはじめとする伝統的な権威が衰退したことを歎いている。

問12 空欄Fに入る適切な語を漢字2文字で記しなさい。

Ⅲ 次の1から3の文章・史料を読み、それぞれの設問に答えなさい。解答は、漢字を用いるべきところは正確な漢字で記述解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。選択問題についてはマーク解答用紙の記号をマークしなさい。なお、史料は、読みやすさを考えて、一部改変している。(26点)

1 1604年、松前慶広は徳川家康からアイヌ交易の権利を認められ、藩政の基礎を固めた。松前藩は、他藩のように田畑からの年貢を財政基盤とするのではなく、アイヌ交易による収入を財政の基礎に据えていた。同藩では、上級家臣に蝦夷地の特定場所(商場)における交易権を知行として与え、家臣は商場へ交易船を派遣して利益を上げていた。このような商場が蝦夷地の全域に展開したが、先住民であるアイヌの側から見ると交易の自由度が失われ、不利を強いられる状況であった。

その後、次第に商場知行制は行き詰まり、18世紀半ば頃には、運上金をとって商場の経営を商人に委ねる が一般的に行われるようになった。そこでは、和人である請負商人によってアイヌの人々は海産物等を安く買いたたかれたり、日常物資を高く買わされたり、また強制労働を強いられるなど、抑圧されることがあった。1789年には商人の飛騨屋久兵衛が請け負っていたクナシリ・メナシの地域でアイヌの蜂起が発生し、松前藩の足軽や飛騨屋配下の者など71人が襲われ殺害された。アイヌ側では37人が処刑されている。

この時、幕府は蜂起にロシア人が関与しているのではないかと危惧していた。その後、幕府は蝦夷地の直轄化を進め、アイヌに対して同化政策を実施した。

問1 下線部①に関して、年貢をはじめ百姓が幕府や藩に対して負担したものの説明として当てはまらないものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 村高に応じて高掛物を負担した。
- イ. 村の運営に必要な費用として村入用を負担した。
- ウ. 山林・原野・河海の利用や収穫に応じて小物成を負担した。
- エ. 徴税法には検見法と定免法があった。
- オ. 河川工事などに労働を提供する夫役をつとめた。

問2 空欄Aに入る制度の名称を記しなさい。

問3 下線部②に関して、蝦夷地の海産物の中には長崎を経て清へ輸出される物もあった。田沼意次政権が積極的に輸出を図った煎海鼠・干し鮑・ふかひれの三品について、それらを一括して何と呼ぶか。その名称を記しなさい。

問4 下線部③に関して、ロシアについて、幕府はこれ以前から関心を持っていた。工藤平助の蝦夷地とロシアに関する著書の書名を記しなさい。

2 徳川家綱は、父家光の死にともない1651年に11歳で将軍の地位に就いた。そのため将軍自身が強い指導性を発揮することはなく、また、父が将軍職を継いだ時のように前将軍に大御所として後見してもらえる状況でもなかった。そのため叔父で会津藩主の や老中酒井忠清・阿部忠秋らの合議によって幕府政治は運営されることになった。

国外との関わりに目を向けると、1639年には当時の将軍家光が 船の来航を禁止し、いわゆる「鎖国」の状態が完成した。その後、1644年に中国で明が滅亡すると、明朝の一族らが清に抵抗して明朝再興運動をつづけ、日本にもくり返し援軍を要請した。将軍家綱の治政下でも 1658年に鄭成功が援軍を求めて来たが、^④幕府は応じなかった。1662年に抵抗勢力が滅亡すると、清はその地位を確立した。こうして東アジアに平和と安定の時代が訪れた。

問5 空欄Bに入る人物の姓名を記しなさい。

問6 空欄Cに入る国名を記しなさい。

問7 下線部④の鄭成功をモデルに『国性爺合戦』を著した人物の姓名を記しなさい。

3 史料1

⑤ 菱垣廻船積問屋共より是迄年々 上納金致し来り候処、問屋共不正の趣も相聞え候ニ付、以来上納ニ及ばず候。尤、向後右仲間株札ハ勿論、此外共都て問屋仲間 并 組合杯と唱候儀は、相成らず候間其段申し渡さるべく候。

一 右ニ付てハ、是迄右船ニ積み来り候諸品ハ勿論、都て何国より出候何品にても、 直売買勝手次第たるべく候。

史料2

第三条 下田、箱館港の外、次にいふ所の場所を左の期限より開くべし。

⑥
神奈川 (中略) 西洋紀元千八百五十九年七月四日
長崎 (中略) 同断
新潟 (中略) 千八百六十年一月一日
兵庫 (中略) 千八百六十三年一月一日

(中略) 神奈川港を開く後六箇月にして下田港は鎖すべし。此箇条の内に載たる各地は垂墨利加人に居留を許すべし。

問8 史料1の下線部⑤について、その説明として正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 東廻り海運を代表する廻船だった。
- イ. 西廻り海運を代表する廻船だった。
- ウ. 大坂から江戸へ多様な商品を運ぶ廻船だった。
- エ. 酒荷専用の廻船だった。
- オ. 遠隔地を結ぶ廻船で、北前船がそれに含まれた。

問9 史料1の空欄D・Eに入る語の組み合わせとして正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

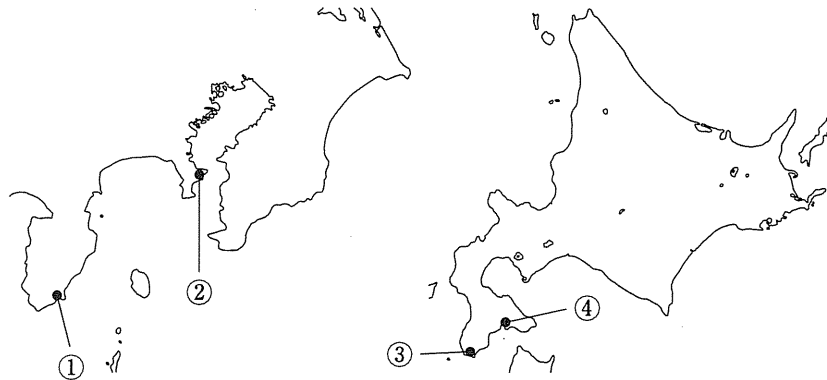
- ア. 空欄D = 国役 空欄E = 問屋
- イ. 空欄D = 国役 空欄E = 素人
- ウ. 空欄D = 冥加 空欄E = 仲間
- エ. 空欄D = 冥加 空欄E = 素人
- オ. 空欄D = 上げ米 空欄E = 仲間

問10 史料1の政策を含む一連の政治改革は、ある前将軍の死後に開始された。
その前将軍の姓名と、一連の政治改革に含まれる政策の組み合わせとして正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 徳川家斉 — 上知令
- イ. 徳川家斉 — 旧里帰農令
- ウ. 徳川家慶 — 人返しの法
- エ. 徳川家定 — 印旛沼の干拓工事
- オ. 徳川家定 — 人足寄場の設置

問11 史料2の条文を含む条約について、その名称を記しなさい。

問12 史料2の下線部⑥について、その地図上の位置の組み合わせとして正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。



- ア. 下田=①, 箱館=③
- イ. 下田=①, 箱館=④
- ウ. 下田=②, 箱館=③
- エ. 下田=②, 箱館=④
- オ. 下田=③, 箱館=④

問13 史料2では省略しているが、同じ条約の第6条には日本人に対して法を犯したアメリカ人の処罰について決められている。その決め方の説明として正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 日本の役人が、国際法に基づいて処罰する。
- イ. 日本の役人が、アメリカの法律に基づいて処罰する。
- ウ. 日本の役人が、日本の法律に基づいて処罰する。
- エ. アメリカ領事が、日本の法律に基づいて処罰する。
- オ. アメリカ領事が、アメリカの法律に基づいて処罰する。

Ⅳ 次の1から3の文章・史料・写真について、それぞれの設問に答えなさい。解答は、漢字を用いるべきところは正確な漢字で記述解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。選択問題についてはマーク解答用紙の記号をマークしなさい。(24点)

1 1869年、政府は公卿・大名を華族と改め、武士を士族(旧足輕以下の下級武士等は卒)、百姓・町人等を平民とした(卒は1872年に廃止)。つづいて、1871年に、えた・非人等の称を廃止した。これらの族籍に基づいて、政府は全国統一の戸籍作成を進めた。政府は、このような身分制解体に関わる改革を四民平等のスローガンのもとに実施していった。^①

華族・士族に対しては、家禄と からなる秩禄が支給されたが、これが政府の総支出の約30%を占めており、財政を圧迫していた。このため、政府は秩禄処分を断行し、あわせて廃刀令等を出して士族の身分的特権を剥奪した。

このような士族に対して、政府は士族授産の道を講じたが必ずしも成功せず、急激な改革に対する不満から反政府暴動を起こす士族たちもいた。前参議 らを首謀者とする萩の乱等の不平士族による武装蜂起が相次いで発生したが、1877年に西南戦争が鎮圧されたのを最後に終息した。一方で、明治前期には農民騒擾も多発した。^②

問1 下線部①に関する記述として誤っているものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 散髪脱刀令が出され、散髪・脱刀の自由が認められた。
- イ. 戸籍は、徴税・徴兵・教育等を実施するための基礎台帳となり、戸籍に登録された人びとを同じ義務を持つ国民として位置づけた。
- ウ. 四民平等に関する政府の施策は十分ではなく、結婚や就職等における旧被差別民に対する社会的差別は続いた。
- エ. 政府が出した解放令によって旧被差別民にも平民同様に職業の自由が認められたが、苗字を名乗ることはその後も許されなかった。
- オ. 華族は、のちに公・侯・伯・子・男の5爵に区分された。

問2 空欄Aに入る語を記しなさい。

問3 空欄Bに入る人物の姓名を記しなさい。

問4 下線部②に関する記述として誤っているものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 1871年に出された解放令に反発して、被差別部落周辺の農民が被差別部落を襲う騒動が発生した。

イ. 1873年、徴兵制や学制にともなう負担の増加に対する反発から大規模な血税一揆が発生した。

ウ. 1876年に発生した伊勢暴動は、三重県で発生して堺・岐阜・愛知県に拡がり、検挙者は数万人に及んだ。

エ. 1877年、政府は地租を地価の3%から2.5%に引き下げることで農民の不満を抑えようとした。

オ. 1868年から1877年の間で最も多くの農民騒擾が起きたのは、大規模な地租改正反対一揆が発生した1876年であった。

2 史料

私^③ノ著書^④ニ於テ述ベテ居リマスル見解ハ、第一ニハ、天皇ノ統治ノ大権ハ、法律上ノ觀念トシテハ権利ト見ルベキモノデハナクテ、権能デアルトナスモノデアリマスルシ、又第二ニ、ソレハ万能無制限ノ権力デハナク、憲法ノ条規ニ依ッテ行ハセラレル権能デアルトナスモノデアリマス、(中略)所謂^{いわゆる}機関説ト申シマスルノハ、国家ソレ自身ヲツツノ生命アリ、ソレ自身ニ目的ヲ有スル恒久的ノ団体、即チ法律学上ノ言葉ヲ以テ申セバツツノ法人ト觀念イタシマシテ、天皇ハ此法人タル国家ノ元首タル地位ニ在マシ、国家ヲ代表シテ国家ノ一切ノ権利ヲ総攬^{らん}シ給ヒ、天皇ガ憲法ニ従ッテ行ハセラレマスル行為ガ、即チ国家ノ行為タル効力ヲ生ズルト云フコトヲ言ヒ現ハスモノデアリマス

(「第六十七回帝国議会貴族院議事速記録」)

問5 下線部③について、「私」の姓名を記しなさい。

問6 下線部④について、「著書」の内容を貴族院で強く非難した陸軍出身の議員の姓名を記しなさい。

問7 史料中の「私」の学説に関する記述として正しいものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 統治権は議会にあり、天皇は議会の委任を受け、国家の最高機関として憲法に従って統治権を行使する存在であると主張した。
- イ. 統治権は法人としての国家にあり、天皇の権力は無制限ではなく、憲法に従って統治権を行使する存在であると主張した。
- ウ. 天皇の権力行使に制限はないが、統治権は法人としての国家に帰属すると主張する上杉慎吉の学説と対立した。
- エ. 現状打破を望む勢力や右翼、在郷軍人会等から支持された。
- オ. 岡田啓介内閣は、国体明徴声明を出して「私」の学説に反対する勢力を弾圧した。

問8 史料が作成された時期の出来事に関する記述として誤っているものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 1932年、海軍青年将校らが首相官邸を襲撃し、犬養毅首相を暗殺した。
- イ. 1933年、日本政府は国際連盟からの脱退を正式に通告した。
- ウ. 1934年に陸軍が発行したパンフレット『国防の本義と其強化の提唱』が国防軍事優先の国防国家を提唱し、論議を起こした。
- エ. 1936年、陸軍皇道派の一部の青年将校は、蔵相高橋是清、内大臣斎藤実らを暗殺し、首相官邸等を占拠するクーデター事件を起こした。
- オ. 1936年、広田弘毅内閣は日独防共協定を結ぶ一方で、ソ連とも協調関係を深めた。

3 次に示した図 a から図 e は、日本近現代史に関わる写真である。

図 a

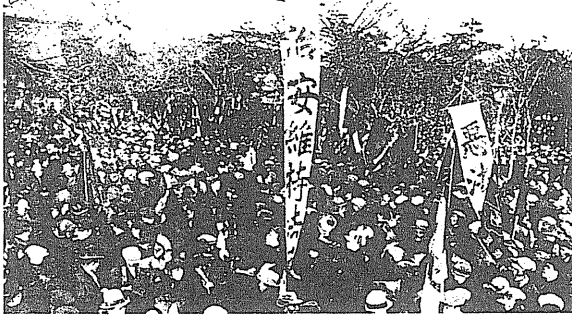


図 d

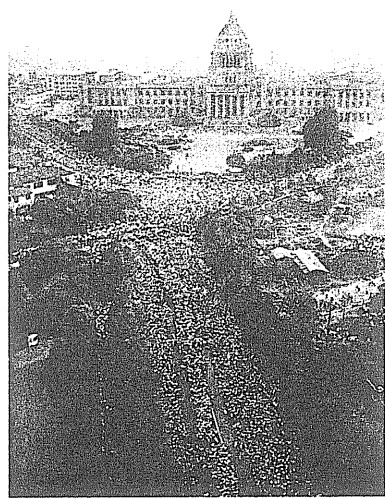


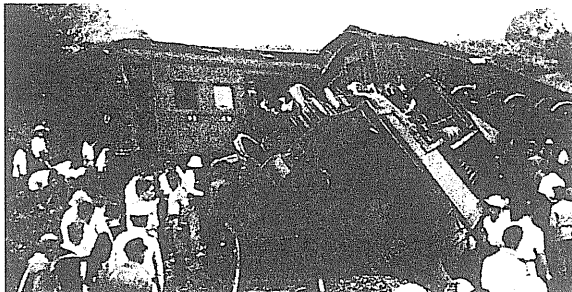
図 b



図 e



図 c



問9 図aから図eの写真を、撮影された年代順に並び替えたものとして正しいものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. a→b→c→e→d

イ. a→b→e→c→d

ウ. a→d→b→e→c

エ. d→a→c→b→e

オ. d→a→b→e→c

問10 図aから図eの説明として正しいものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 図aは、治安維持法に反対する集会の写真であり、これがきっかけとなって加藤高明内閣は退陣した。

イ. 図bは、児童を勤労働員するために工場がある地方へ輸送する場面の写真である。

ウ. 図cは、国鉄が職員の大量解雇を中止するきっかけとなった松川事件の写真である。

エ. 図dは、立憲政友会と立憲国民党が桂太郎内閣に対する不信任案を議場に提出し、それを支持する民衆が議事堂を包囲した時の写真である。

オ. 図eは、敗戦後の食糧難を受けて開催された飯米獲得人民大会（食糧メーデー）の写真である。

問11 図aに関連する以下の説明文の空欄Cに入る語を漢字2文字で記しなさい。

治安維持法は、の変革や私有財産制度の否認を目的とする結社の組織者・加入者・資金提供者等に、最高刑として懲役10年を課すものであった。

問12 図dが撮影された当時の内閣総理大臣の姓名を記しなさい。

